

- Q. 留学全般について知りたいのですが、何か参考になるウェブサイトなどはありますか？
- Q. 派遣留学の手続きを教えてください。
- Q. 派遣留学先では、どのような授業が受講できますか？
- Q. 派遣留学と休学留学の違いは何ですか？
- Q. 休学留学の手続きを教えてください。
- Q. 派遣留学および休学留学のメリット、デメリットについて教えてください。
- Q. 語学留学と学部留学の違いについて教えてください。
- Q. 留学先で取得した単位は外大の単位になりますか？
- Q. 留学先ではどのくらいの単位が取れますか？
- Q. 派遣留学に行く時期を迷っています。
- Q. 外国籍の学生も派遣留学に応募できますか？
- Q. 4年生のときに派遣留学に行くことはできますか？
- Q. 4年で卒業したいのですが、長期留学（1年間の留学）は可能ですか？
- Q. 英語圏に留学する場合に、どのくらいの英語力が必要ですか？
- Q. TOEFL と IELTS はどちらを受検したほうがよいですか？
- Q. 留学するための GPA 要件はありますか？
- Q. 留学先をどうやって選んでよいのかわかりません。
- Q. 英語圏への留学を希望していますが、英語圏にある協定校の特徴を教えてください。
- Q. 「〇〇学」（言語学、国際関係学、政治学、経済学、開発学…）を学びたいのですが、お勧めの大学はありますか？
- Q. 専攻言語・地域以外の国へ留学することはできますか？
- Q. 台湾と中国ではどちらがお勧めですか？スペインと中南米ではどちらがお勧めですか？ポルトガルとブラジルではどちらがお勧めですか？
- Q. 留学中の宿泊先はどうやって探すのでしょうか？
- Q. 留学先でアルバイトはできますか？
- Q. 留学中のお金のもっていきかたはどうしたらよいですか？
- Q. 留学にはどのくらいのお金がかかりますか？
- Q. 留学のための給付型（返済不要）奨学金はありますか？
- Q. ビザとは何ですか？ビザはどうやって取るのでしょうか？
- Q. ビザ申請のサポートはしてもらえますか？
- Q. 留学以外のプログラムはありますか？（インターン、ボランティアなど）
- Q. 海外インターンシップに興味があります。インターン先をどうやって探せばいいですか？
- Q. お勧めの留学エージェントはありますか？
- Q. お勧めの海外旅行保険はありますか？
- Q. 留学支援共同利用センターにある鳥のマスクットの人形はどうやって買ったらもらえますか？大学生協で売っていますか？
- Q. 私費留学をする際に、大学からの推薦書が必要です。どうやって手配すればよいですか？留学生課で書いてもらえますか？
- Q. 私費留学の応募申請に、英文エッセイが求められています。英文エッセイの添削をお願いできますか？
- Q. ワーキングホリデー制度で海外に行きたいのですが、何かアドバイスはありますか？
- Q. 学部卒業後に海外の大学院への進学を考えています。海外大学院に進学する手続きや必要な要件など教えてください。
- Q. 出願書類の証明書付き翻訳が必要となりました。大学で対応してもらえますか？
- Q. 英語を勉強するために私費留学したいのですが、できるだけ費用を抑える方法はありますか？
- Q. ドイツの大学は学費が無料と聞きました。ドイツに私費留学できますか？
- Q. 海外に行ったことが無いので留学するのが不安です。どうしたらよいですか？
- Q. 短期の留学は遊びみたいなのだと言われました。短期の留学ではあまり意味がないのでしょうか？
- Q. 休学留学をする予定です。5年で卒業することになりますが、留年していると就職活動で不利になるのでしょうか？
- Q. 新型コロナウイルスの影響で現地に渡航できません。その代わりに、オンラインで授業が実施されることになったのですが、現地に行かなければ意味がないと思います。オンライン留学にはどういった意味があるのでしょうか？
- Q. 留学経験者の話を聞くことができますか？
- Q. 留学中にトラブルに遭った場合、相談する窓口がありますか？
- Q. 外大生であるからには留学に行かなければならないのでしょうか？あまり留学したいと思わないのですが。

Q. 留学全般について知りたいのですが、何か参考になるウェブサイトなどはありますか？

A. 日本学生支援機構（JASSO）の海外留学支援サイトにある『留学ガイドブック「わたしがつくる海外留学」』というページが参考になると思います。<https://ryugaku.jasso.go.jp/publication/guidebook/> 留学の種類、スケジュール、情報収集や留学手続きに関する情報のほか、留学体験記も掲載されています。

[先頭に戻る](#)

Q. 派遣留学の手続きを教えてください。

A. 例年のスケジュールの場合、派遣される前年度の秋学期初旬（10月第1週頃）に説明会が開催されます。各協定校の募集要項も説明会開催後に公開されます。本学への応募申請は、10月末です（ただし、その時の状況により変わる可能性あり）。その後、選考が実施され、年末から年明けにかけて合否の結果が出ます。ただし、留学先によって、このスケジュールによらず、春学期中に選考が行われるところもあるので（ドイツ語圏など）、専攻語担当の教員からの連絡をよく確認してください。

学内選考に合格した場合、本学から協定校にノミネーション手続きを行いますので、その後、各自で留学先に応募申請をします。申請期限や必要書類は協定校ごとに異なりますので、協定校の交換留学のウェブサイト等をよく確認のうえ、早めに書類準備をしてください。また、所持しているパスポートの有効期限にもご注意ください。有効期限が留学期間をカバーしていない場合、パスポートの更新が必要です。

[先頭に戻る](#)

Q. 派遣留学先では、どのような授業が受講できますか？

大学間交流協定の内容によりますが、特定の学部に限らず自由に授業を選択できる場合が多いです（医学、薬学など、専門知識が必要とされる科目を除く）。留学生用の語学科目が提供される大学もあります。各協定校の交換留学のウェブサイト等から、履修できる授業についての情報を確認してください。

[先頭に戻る](#)

Q. 派遣留学と休学留学の違いは何ですか？

A. 派遣留学は、本学と学生交流協定を締結している協定校への交換留学のことです。協定校での在籍期間も本学における就学期間としてカウントされますので、留学期間を含めて4年間で卒業が可能です。また、交換留学の場合、留学先への授業料の支払いは免除され、その代わりに、本学に所定の授業料を納めていただきます。交換留学では、協定校ごとに交換人数枠が設けられており、留学するには学内選考に合格する必要があります。一方で、休学留学は、休学をしての留学となります。そのうち、事前に単位認定申請のあるものを「休学留学」、単位認定申請をしないものを「自由留学」と呼んでいます。いずれも、自分で探してきた高等教育機関等（主に大学）への私費留学という扱いになります。休学中は本学の授業料は納めなくてよい代わりに、留学先の授業料を納めることになります。私費留学生を受け入れる制度があるかどうかは大学により異なります。

[先頭に戻る](#)

Q. 休学留学の手続きを教えてください。

A. 休学の手続きは、教務課にて行います。本学ウェブサイトに手続きマニュアルや必要書類が掲載されているので、そちらをご確認ください。また、休学の申請は、休学を開始する時期より1カ月前までにしてください。

休学しての留学には、「休学留学」と「自由留学」の2種類があります。いずれも休学をして留学するものですが、事前に「単位認定の申請がある場合」は「休学留学」、単位認定の申請が無い場合は「自由留学」となります。

また、休学して留学する場合の留学先に制限はありません（派遣留学の場合の留学先は、本学協定校のみ）。ご自身で探してきた高等教育機関等に留学できます。学部で勉強することもできます。語学学校で語学を勉強することもできます。留学の手続きは、基本的に、留学先機関のウェブサイト等で確認して、その指示に従うこととなりますが、不明な点は留学先に直接メール等で確認しましょう。

[先頭に戻る](#)

Q. 派遣留学および休学留学のメリット、デメリットについて教えてください。

A. 派遣留学のメリットは、大学の協定校であるため情報収集がしやすい、4年で卒業することが可能、本学の授業料を納めれば留学先の授業料は免除（留学先の授業料のほうが高額な場合はメリットですが、逆の場合もあり）、交換留学生の身分が与えられ留学先のサポートが受けやすい（寮に入りやすいなど）、応募可能な給付型奨学金が多くなる、といったことなどが挙げられます。デメリットは、留学先を協定校の中からしか選べない、という点です。休学留学は、その逆で、自由に留学先が選べるというメリットがある一方で、情報収集や申請手続きを基本的に自分ですべてやらなければいけない、必ず留年する、（英語圏など）高い授業料を

払わなければならないケースがある、応募可能な奨学金が限られる、といったことがデメリットです。これだけ読むと、休学はデメリットのほうが大きいように思えるかもしれませんが、休学する場合は、その休学期間に自分のやりたいことを自由にプランニングできます。例えば、1年間の休学期間のうち、4カ月間、国内でアルバイトをしてお金を貯めて、4カ月間、英語圏で英語力を向上させ、次の4か月間は、自分の専攻語地域で、専攻語の運用能力を高める、といったプランも可能です。

[先頭に戻る](#)

Q. 語学留学と学部留学の違いについて教えてください。

A. 語学留学は、海外の語学学校で、言語を学ぶものです。語学学校は、大きく分けて、大学付属の語学学校と民間の語学学校の2つに分かれます。それぞれ特色があるので、ウェブサイト等で確認してみましょう。一般的に、大学付属の場合、学校がキャンパス内にあれば、海外の大学のキャンパスライフを味わうことができます。また、大学の施設（図書館、ジム等）が利用できる場合があります。コース日程は、学部の学事日程と一致していることがあり、その場合、入学時期が限定されます。大学の正規課程に進学するためのコースがあるところも多いです。他方、民間の語学学校は、市街地などのアクセスが容易な場所にあることが多いです。柔軟なコース日程、また、いつでも開始できるところがほとんどです。語学+ホスピタリティ、語学+バリスタ、といった多様なプログラムを用意しているところもあります。週あたりの授業時間数も比較的柔軟に選べるところが多いです。授業料については、大学付属と民間とで大きな差はありません。

学部留学は、1学期間、もしくは1年間を上限として、海外の大学で学部の授業を履修するものです。語学を学ぶのではなく、現地の言葉で、現地の学生や留学生と共に、専門的な科目を学ぶこととなります。履修した授業で合格点を取れば単位が認められます。このような制度を持っている大学と持っていない大学があるので要注意です。またこうした制度をもつ大学でも、制度の呼び方は様々です。大学により「Study Abroad Program」「Free Mover (EU圏に多い)」「Visiting Student」「Non-degree Student」「Fee-paying Student」などと呼ばれます。申請方法は、留学先の大学のウェブサイト等で確認できます。

また一部の大学（特に英語圏）では、語学+学部留学のプログラムを提供しています。学部に直接入学するには語学スコアが足りない場合、まず語学コースを受講して一定レベルに達した後、学部の授業が聴講できるような制度を持つところもあります。

[先頭に戻る](#)

Q. 留学先で取得した単位は外大の単位になりますか？

A. 派遣留学（交換留学）の場合、また、休学留学の場合（事前に単位認定申請をした場合）、留学先で取得した単位は本学の卒業に必要な単位として認められます。語学学校に留学した場合の単位認定はケースバイケースとなるので、教務課にご相談ください。また単位認定の手続き詳細については、本学ウェブサイトにある「留学・単位認定に関する手続きマニュアル」をご確認ください。そのほか不明な点は、教務課にご確認ください。

[先頭に戻る](#)

Q. 留学先ではどのくらいの単位が取れますか？

A. 留学先によって、単位の数え方が異なるため一概には何も言えません。一般的に、欧米の大学では、1学期間に履修する科目数は、3～5科目です。仮に、各学期4科目履修して、2学期間の留学をした場合、本学の単位としては、単純計算では、8科目、16単位となります（専門科目の場合）。ただし、授業時間数や内容によっては変わる可能性があるため、目安としてお考え下さい。

[先頭に戻る](#)

Q. 派遣留学に行く時期を迷っています。

A. 4年で卒業したい場合は、1年次に応募して、2年次の秋から留学することを検討するとよいでしょう。ただし、2年次から応募可能な留学先は主に英語圏に限られています。2年次に留学する場合、本学で1年半勉強した状態での留学となります。専門的な知識が十分でない場合、留学先でも基礎的な科目を履修することになる可能性もあります。3年次に留学する場合、ある程度、何を専門とするか、卒論のテーマなど決まってくると思いますので、留学先で、より専門的な授業や、卒論を見越した科目履修などもできると思います。部活やサークル活動がある場合、4年次に留学する人もいます。絶対にこの時期に行かなければいけない、というようなことは無いので、まずは卒業までの学修計画を立てて、その中で、どのタイミングで留学を組み込むのが自分にとってベストかを考えるとよいでしょう。

[先頭に戻る](#)

Q. 外国籍の学生も派遣留学に応募できますか？

A. 応募できます。ただし、考慮しなければいけないことがあります。まず、留学先国によっては、自国の国籍を持つ学生の留学を認めていないケースがあるので、事前に留学先大学に確認してください。また、国籍によってビザ申請に必要な書類が異なったり、ビザが発給されるまでに時間がかかったりするので、早めの準備が必要です。日本国内で応募する留学に関する奨学金のほとんど

が、受給要件に日本国籍もしくは日本の永住権を持つものという条件を課していますので、応募できる奨学金も限られています。本学に在籍する正規生のうち、国費留学生については、留学中は奨学金の支給が停止されます。また、国費留学生は留年すると国費留学生としての資格を失いますので、留学期間を含めて確実に4年で卒業できるように履修計画を立てることが大切です。

[先頭に戻る](#)

Q. 4年生のときに派遣留学に行くことはできますか？

A. できます。ただし、その場合4年での卒業はできません。また、4年次の秋から1年間留学する場合で、日本国内で就職することを考えていて、かつ5年で卒業を目指す場合は、就職活動との兼ね合いをよく考える必要があります。

[先頭に戻る](#)

Q. 4年で卒業したいのですが、長期留学（1年間の留学）は可能ですか？

A. 派遣留学（交換留学）の制度で留学すれば4年での卒業は可能です。ただし、実際には、就職活動との兼ね合いで、5年で卒業をする学生が多いのが実情です。

[先頭に戻る](#)

Q. 英語圏に留学する場合に、どのくらいの英語力が必要ですか？

A. 学部留学する場合、大学によって語学要件が明示されているので、留学先のウェブサイト等でご確認ください。大学によっては、TOEFL iBT 60程度、IELTS 5.5～で受け入れてくれるところがあります。ただし、選択肢を多く持つためには、TOEFL iBT 90以上、IELTS 6.5以上を目指しましょう。なお、総合大学よりも、コミュニティカレッジのほうが必要な英語スコアは低いところが多いです。海外の大学院進学を考える場合は、TOEFL iBT 90、IELTS 6.5は最低ラインと考えたほうがよいでしょう。

[先頭に戻る](#)

Q. TOEFL と IELTS はどちらを受検したほうがよいですか？

A. 希望する留学先大学が、両方とも認めている場合はどちらでも構いません。TOEFL と IELTS の出題傾向は若干異なりますので、関連のインターネットサイトや、参考書を見て、どちらのほうが取り組みやすいかを確認したうえで、受検する資格試験を選ぶとよいでしょう。本学の ELC (English Learning Center) にも参考書が置いてあります。なお、TOEIC や英検は留学においては利用できないことが多いのでご注意ください。なお、イギリスの大学では、TOEFL のスコアを語学力証明として認めていないところもありますので注意してください。また、IELTS には、General Training モジュールと、Academic モジュールの2種類がありますが、留学で利用されるのは Academic モジュールです。

[先頭に戻る](#)

Q. 留学するための GPA 要件はありますか？

派遣留学の場合、学内選考応募時の GPA 要件は 2.0/4.0 必須です。また、英語圏の協定校ほか一部協定校では、別に GPA 要件が設定されています。学内選考のための GPA 要件と、派遣先大学が求める GPA 要件が異なる場合は、ノミネーション時まで両方を満たす必要がありますのでご注意ください。休学して留学する場合も、学部留学の場合は GPA 要件が設定されていることがあります。留学先のホームページをよく確認するようにしましょう。

[先頭に戻る](#)

Q. 留学先をどうやって選んでよいのかわかりません。

A. 「留学の目的」と「留学先を選ぶ基準」を明確にすることが大事です。まず「留学の目的」ですが、自分は何を学びたいのか、を考えましょう。本学で学んでいることをさらに深めたい、現地からの視点で学んでみたい、という目的もあれば、本学ではあまり開講されていない分野の勉強がしたい、という目的もあると思います。なるべく具体的な学問分野、科目、また、関心のある社会的な課題などを明確にしたうえで、それらを学ぶことのできる大学を選ぶのがよいでしょう。また、長期の海外生活をするということ自体も貴重な経験です。行ってみたい国、生活してみたい場所などある場合は、行き先（大学の所在地）で選ぶのもよいと思います。そのほか、語学力や経済的な制約などから留学先を絞ることもあると思います。大学の規模、留学生数、学期の開始時期も判断材料になると思います。留学先を選ぶ基準は様々あり、その中で何を重視するかを考えながら検討することをお勧めします。それから、留学先候補となる大学のウェブサイトはよく確認しましょう。外国人留学生向けのサイトには、その大学の特色や、開講されている授業、サークル団体、現地の生活情報、住居に関する情報などが掲載されています（もちろん、情報の充実度は大学によってかなり異なりますが…）。また、実際に留学を経験した人に話を聞くことも大事です。大学のウェブサイトでは分からないような細かい情報も、留学経験者からは得ることができるでしょう。

[先頭に戻る](#)

Q. 英語圏への留学を希望していますが、英語圏にある協定校の特徴を教えてください。

A. 個別の大学の特徴などについては、自分自身でそれぞれの大学のウェブサイトなどで調べてください。各国の公的な国際交流機関（イギリス：British Council、アメリカ：Education USA、カナダ：EduCanada、オーストラリア：Study in Australia、ニュージーランド：Education New Zealand）でも情報収集できます。また、世界大学ランキングでは、分野別のランキングもありますので、どの大学がこういった分野で評価が高いのか、ということも参考になると思います。その他、インターネット上で大学の特徴などをまとめたサイトもあるので、参考にするとよいでしょう。ただし、インターネット上の情報は、非常に主観的なものや、偏重的なもの、プロモーションが含まれているものなどがありますので、書かれていることを鵜呑みにせずに、様々な情報ソースから総合的に判断するようにしてください。

[先頭に戻る](#)

Q. 「〇〇学」（言語学、国際関係学、政治学、経済学、開発学…）を学びたいのですが、お勧めの大学はありますか？

A. ご自身で情報収集して、納得のいく選択をしていただきたいと考えているので、特定の大学をお勧めすることはありません。情報収集の方法としては、インターネットの検索エンジンで、「(分野名) + (大学名)」で検索してみてください。その大学が、勉強したい分野の研究センターをもっていたり、大学院レベルのコースを提供したりしていれば、学部レベルの教育も充実していることが予想されます。また、各大学で提供されている科目やシラバスを検索して、興味のある授業がどのくらいあるかをぜひ調べてみましょう。大学のウェブサイト上で、キーワード検索も可能なコースカタログというページが用意されていれば、そこで、条件を絞って、授業を探すことができます。その他、分野別の世界大学ランキングも大学を絞る上では参考になると思います。世界大学ランキングで有名なのは、Times Higher Education、QS World University Rankings、上海交通大学による Academic Ranking of World Universities (ARWU)、などです。

[先頭に戻る](#)

Q. 専攻言語・地域以外の国へ留学することはできますか？

A. 可能です。派遣留学では、応募要件を満たしていれば、専攻言語・地域に関わらずどの協定校にも応募することができますし、休学留学では、自由に留学先を選ぶことができます。特に英語圏には、様々な言語を専攻する学生が留学します。英語圏の留学先で、自身の専攻言語や地域を学ぶ授業を履修するケースもあります。

[先頭に戻る](#)

Q. 台湾と中国ではどちらがお勧めですか？スペインと中南米ではどちらがお勧めですか？ポルトガルとブラジルではどちらがお勧めですか？

A. 同一言語圏ですが、国が変わると留学の中身も大きく異なります。自分自身の興味関心や体験したいこと等と、国ごとの特徴や、こういった機会があるのか、といったことを照らし合わせて、留学先を選ぶとよいでしょう。

[先頭に戻る](#)

Q. 留学中の宿泊先はどうやって探すのでしょうか？

A. 派遣留学（交換留学）の場合は、寮に入る人が多いです。応募申請の際に、入寮希望の有無を確認されるケースや、入学許可が出た後に、入寮に関する申請手続きの案内が来るケースもあります。協定校によっては寮を持っていない場合があります。その場合は、協定校のウェブサイトに掲載されている学生向けホステルや民間アパートを探すことになります。留学先のウェブサイトに住居の案内があるケースが多いです。人によっては、現地の生活に慣れるまで1カ月間ホームステイをして、その後、民間アパート（シェアハウス等）に移る人もいます。宿泊先が日本で手配できない場合、早めに現地入りして、ホステルなどに2週間ほど滞在して、その間に、大学の学生サービス担当や、現地不動産屋を回って滞在先を探すというケースもあります。

[先頭に戻る](#)

Q. 留学先でアルバイトはできますか？

A. 取得したビザ（学生ビザ等）の許可する範囲内で就労が可能です。ビザにより、就労が一切禁止されているケース、キャンパス内での就労のみ許可されるケース、週20時間までなどの制約があるケースなど様々です。許可されている範囲を逸脱することは違法行為とみなされ、強制帰国となることもあるので注意が必要です。また、就労にあたり納税のための手続きなどが別途必要になることもあります。なお、アルバイトも留学中の良い経験ですが、学生の本分は学業ですので、学業に差しさわりの無い程度にすることをお勧めします。

[先頭に戻る](#)

Q. 留学中のお金のもっていきかたはどうしたらよいですか？

A. 現金、クレジットカード、トラベルプリペイドカードなどを併用するとよいでしょう。あまり多額の現金は持ち歩かないことをお勧めします。多額の現金を持参する場合、何か所かに分散させて持つなど、盗難に備えておくともよいでしょう。トラベルプリペイドカードは、発行する会社によって、手数料やサービスが異なりますので、比較検討したうえで利用してください。クレジットカードについては、利用限度額が低めに設定されている場合、現地で使えなくなる可能性もあるので、一時的に限度額を引き上げることをご検討ください。

[先頭に戻る](#)

Q. 留学にはどのくらいのお金がかかりますか？

A. 留学先によって物価が大きく異なるため、一概には答えられません。必要となる費用項目としては、学費、渡航費（航空券代）、宿泊費（家賃）、食費、生活費、交通費、保険、娯楽費用、などです。休学して、イギリスの大学に10カ月間留学する場合の概算は、学費：250万円、渡航費：20万、宿泊費：100万、食費：30万、生活費：30万、保険：10万、娯楽（旅行など）費用：15万、とすると、合計で455万円となります。これが、インドの場合、学費：50万、渡航費：15万、宿泊費：30万、食費：15万、生活費：20万、保険：15万、娯楽費用：20万、くらいとなって、合計165万円です。若干多めに見積もっている部分もありますが、留学にはお金がかかるのが現実です。経済的負担を減らすには、奨学金を積極的に活用することもご検討ください。

[先頭に戻る](#)

Q. 留学のための給付型（返済不要）奨学金はありますか？

A. あります。主に、日本学生支援機構（JASSO）が提供しているもの（海外留学支援制度「協定派遣」）、民間の財団等が提供しているもの、各国政府が実施している奨学金制度などがあります。JASSOの奨学金は、派遣留学の学生が応募できます。渡航先に応じて、月6～10万円が支給されます。成績要件を満たす必要があり、また人数枠に限りがあるので、必ず受給できるとは限りません。民間の財団等が提供するもののうち、本学に案内のあった奨学金の情報は、本学の「留学に関する奨学金」のページに掲載しています。なお、派遣留学の学生のみ応募できる奨学金が多数となります。休学でも応募できるものとしては、トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラムが代表的なものです（2027年度まで実施予定）。そのほか、奨学金について調べる際は、日本学生支援機構（JASSO）の海外留学支援サイトをチェックすることをお勧めします。このサイトには、奨学金のデータベースがあり、自分の条件にあった奨学金を検索することが可能です。なお、奨学金の応募時期は、団体により異なりますが、早いものだと留学する前年度の夏に応募〆切となるものもあります（経団連グローバル人材育成スカラシップなど）。早めの情報収集が大切です。

[先頭に戻る](#)

Q. ビザとは何ですか？ビザはどうやって取るのでしょうか？

A. ビザ（査証）は、渡航先の国が発行する入国許可証のようなものとお考え下さい。渡航目的に応じて様々なタイプのビザがありますが、留学する際は「学生ビザ」と呼ばれる種類のを申請するのが一般的です。ビザを取得する際は、日本国内にある各国大使館・領事館に申請します。最近は、オンライン申請となっている国もあります。また、公的な代理機関を通して申請する国もあります。申請にあたって必要な書類は、渡航先やビザの種類により様々です。戸籍謄本が必要だったり、翻訳証明付きの英訳が必要だったりするため、なるべく早めに必要書類を確認し、手配することをお勧めします。申請には、留学先からの受入許可書が必要となるので、受入許可書を入手出来次第、ビザ申請ができるような準備をしておくともよいでしょう。ビザに関して不明な点は、各自で各国大使館・領事館に確認してください。

[先頭に戻る](#)

Q. ビザ申請のサポートはしてもらえますか？

A. ビザ申請に関して不明な点があればご相談ください。こちらで分かる範囲でサポートします。ただし、ビザの申請手続きそのものはご自身で行っていただきます。また、ビザ申請に関するあらゆる判断は、渡航先国の大使館・領事館が行うものです。準備した書類に不備が無いかなどは大学では判断できませんので予めご承知おきください。

[先頭に戻る](#)

Q. 留学以外のプログラムはありますか？（インターン、ボランティアなど）

A. 大学や語学学校で勉強する以外にも、海外で就業経験を得る（インターンシップ）、ボランティア活動をする機会があります。大学を通して申し込むインターンシッププログラムについては、本学のグローバルキャリアセンター（GCC）にお問い合わせください。大学を通さずに、自分自身で探してきたインターンシップや、ボランティアプログラムに参加する学生も多数います。長期でそうしたものに参加する場合は、大学を休学するケースがほとんどです。

[先頭に戻る](#)

Q. 海外インターンシップに興味があります。インターン先をどうやって探せばいいですか？

A. インターン先の探し方としては、インターネット上で探す、知人などのツテから探す、インターン先をあっせんしているエージェントを利用する、といった方法があります。また、留学エージェントの中には、語学留学+インターンシップというプログラムを提供しているところもあります。手っ取り早いのはエージェントの利用ですが、斡旋料が必要だったり、得られるサポート内容がまちまちだったりするので、十分な調査と検討が必要です。インターネットで探す場合、インターン募集の案内があれば、その案内に応じて応募することになりますが、募集をしていないところでも、直接お願いをしたら受け入れてくれた、という話もありますので、すぐにあきらめずにチャレンジしてみるのも良いと思います。なお、一口にインターンといっても、業務内容は様々なので、自分がどんな経験を得たいのか、どういった分野で働きたいのか、ということを明確にしておくことが大切です。また、インターン先によっては、インターンに来る学生を単なる安価な労働力としか見ていないところもあるようです。言い方は悪いですが、“無給でこき使われる”ことも実際に起こり得ます。できれば経験者に直接話を聞いて、海外インターンの実態をよく理解したうえで、応募することをお勧めします。

[先頭に戻る](#)

Q. お勧めの留学エージェントはありますか？

A. ありません。大学として特定のエージェントをお勧めすることはいたしません。エージェントの利用については、ご自身の責任においてお願いしております。なお、留学エージェントは数多くあります。手数料が無料のところもあれば、そうでないところもあります。さまざまな留学先を取り扱っているエージェントもあれば、特定の国に特化したエージェントもあります。いずれにしても、エージェントを利用する際は、事前に複数のエージェントにコンタクトをして、比較検討するとよいでしょう。

[先頭に戻る](#)

Q. お勧めの海外旅行保険はありますか？

A. ありません。ご自身で探していただいております。なお、大学の制度を利用して留学する場合（交換留学、ショートビジット、スタディツアー、JEP、休学留学（単位認定申請ありの留学）等）は、大学指定の海外留学保険に加入していただきます。自由留学や私的な旅行、休学中の海外インターン、ボランティアなどの場合は、ご自身で探してきたものに加えしてください。

[先頭に戻る](#)

Q. 留学支援共同利用センターにある鳥のマスコットの人形はどうやったらもらえますか？大学生協で売っていますか？

A. 大学生協で購入可能です。ちなみに名前は「トビタくん」です。なお、留学支援共同利用センターにある人形は大学生協で販売されているものとは形状が異なります。センターが保有している人形が欲しい場合、留学中にブログ記事を書くことを条件に、留学前にお渡ししています。留学中は、「トビタくん」を入れた写真と共に、ブログ原稿を送っていただきます。興味のある方は、留学支援共同利用センターにお問い合わせください。

[先頭に戻る](#)

Q. 私費留学をする際に、大学からの推薦書が必要です。どうやって手配すればよいですか？留学生課で書いてもらえますか？

A. 推薦書は、本学の指導教員等に依頼してください。留学生課では対応しておりません。

[先頭に戻る](#)

Q. 私費留学の応募申請に、英文エッセイが求められています。英文エッセイの添削をお願いできますか？

A. 英文エッセイの添削はしておりません。ただし、書くべき内容などをアドバイスすることは可能です。英文のチェックをしてもらいたい場合は、本学のELC（English Learning Center）にご相談ください。

[先頭に戻る](#)

Q. ワーキングホリデー制度で海外に行きたいのですが、何かアドバイスはありますか？

A. ワーキングホリデーのビザを取得すれば、現地働くことができますが、仕事は自分で探さなくてはなりません。何か特定のスキルや、高い語学力があれば別ですが、そうでない場合は、仕事探しは簡単ではありません。場合によっては、日本食レストランや農場での肉体労働くらいしか仕事が見つからないこともあります。そうした現状をよく理解したうえで、ワーキングホリデーに行くことをお勧めします。なお、スキルや語学力がある場合は、現地の人々が利用する求職サイトなどから興味のある仕事に応募するとよいでしょう。また、ワーキングホリデービザの場合、就労だけでなく、語学学校に通うことが認められている国も多いです。ただし、受けられる授業時間数に制限があることがあるのでビザ要件をよく確認しましょう。

[先頭に戻る](#)

Q. 学部卒業後に海外の大学院への進学を考えています。海外大学院に進学する手続きや必要な要件など教えてください。

A. 国によって大学院進学に必要な手続きは異なります。どの国でも必要となるのは語学力です。英語圏の大学院に進学する場合、IELTS6.5～7.5、TOEFL90～105程度が求められます。また、学部のGPAも重要です。GPAが低いとその時点で不合格となることもあります。国別の違いですが、アメリカの大学院に進学するには、GREやGMATと呼ばれる大学院進学の共通試験を受ける必要があります。この試験で一定のスコアをクリアする必要があり、クリアできれば、CV、エッセイ、推薦状などの審査があり、合否判定となるのが一般的です。イギリスでは、まず、GPA、CV、エッセイ、推薦状の審査があり、そこで通過すると、英語力の審査があり、英語要件を満たしてれば合格となり、英語要件を満たしていなくても一定レベル以上のスコアがあれば、入学までに英語要件を満たすことを条件にした「条件付き合格」となることがあります。オーストラリアでは、GPA、出願書類の審査ののち、イギリスと同様に英語力の審査があります。オーストラリアも「条件付き合格」の制度があります。いずれにしても、各大学のウェブサイトをよく読み、必要書類や出願要件を確認しましょう。

[先頭に戻る](#)

Q. 出願書類の証明書付き翻訳が必要となりました。大学で対応してもらえますか？

A. 大学では対応できません。翻訳証明が必要な場合は、専門の業者に依頼してください。

[先頭に戻る](#)

Q. 英語を勉強するために私費留学したいのですが、できるだけ費用を抑える方法はありますか？

A. 欧米の英語圏への留学は、学費や滞在費が高額となりがちです。少しでも経済的負担を減らすことを考えるのであれば、アジア圏（フィリピン、マレーシアなど）への留学をご検討ください。

[先頭に戻る](#)

Q. ドイツの大学は学費が無料と聞きました。ドイツに私費留学できますか？

A. 私費留学の場合、ドイツの大学では「Free Mover」と呼ばれる制度を持っている大学であれば、留学できる可能性があります。ただし、「Free Mover」の制度があっても、EU圏外からの応募を受け付けていない大学もあるので、ご注意ください。国立大学では学費が無料ということもあって、ドイツの大学への留学は非常に人気が高くなっています。そのため早めに応募することをお勧めします。なお、大学付属の語学学校でドイツ語を勉強するには、授業料が必要となります。

[先頭に戻る](#)

Q. 海外に行ったことが無いので留学するのが不安です。どうしたらよいですか？

A. 最初から長期の留学に挑戦するよりも、まずは夏学期／冬学期のショートビジットプログラムなどを利用して短期の留学を経験してみることをお勧めします。そこで、海外生活を経験することによって、長期留学への準備もできます。また、何か不安がある場合は、具体的にどんなことが不安なのかを言語化してみましよう。言葉にできれば、それに対する対処の仕方も考えることができ、不安の軽減につながると思います。何か分からないことがあれば、留学支援共同利用センターまでご相談ください。

[先頭に戻る](#)

Q. 短期の留学は遊びみたいなものだと言われました。短期の留学ではあまり意味がないのでしょうか？

A. 短期の留学であっても、人生を変えるような経験となりえます。大事なことは、留学の効果を最大化するために、どんな準備をして、現地でのどのように過ごすかです。短い期間であっても、きちんと目標を立てて、その目標を達成するための行動をとるようになれば、様々な成果を得ることができると思います。

[先頭に戻る](#)

Q. 休学留学をする予定です。5年で卒業することになりますが、留年していると就職活動で不利になるのでしょうか？

A. 留年をしている、という理由だけで不利になることはありません。休学して留学をしている場合、そこでどのような経験をしたのか、どのように成長できたのか、ということを伝えることが大切です。最近では、学生時代に留学に行くことが一般的になってきており、企業側もそうした事情を理解していると思われます。

[先頭に戻る](#)

Q. 新型コロナウイルスの影響で現地に渡航できません。その代わりに、オンラインで授業が実施されることになったのですが、現地に行かなければ意味がないと思います。オンライン留学にはどういった意味があるのでしょうか？

A. 現地経験はできませんが、いくつかの面でオンライン留学には利点があります。住み慣れた環境に居ながら現地の授業が履修で

きる、渡航費用が不要なため経済的負担が軽減される、といった点はオンラインならではの良い点です。もちろん、時差には考慮が必要です。また、学生同士の交流などは限界があるでしょう。メリット、デメリットをよく理解したうえで受講することをご検討ください。

[先頭に戻る](#)

Q. 留学経験者の話を聞くことができますか？

A. はい。本学ウェブサイトの留学体験報告のページでは、これまで派遣留学、ショートビジットを経験した学生の体験報告書を見ることが出来ます。また留学支援共同利用センターが毎年10月頃に行っている「留学フェア」では、留学体験報告会を行っていますので、そうした機会をご活用ください。

[先頭に戻る](#)

Q. 留学中にトラブルに遭った場合、相談する窓口がありますか？

ryugaku_support@tufts.ac.jp（留学生課、留学支援共同利用センター）までご連絡ください。また自身が加入する海外留学保険のサポートデスクの連絡先も、必ず確認しておきましょう。

[先頭に戻る](#)

Q. 外大生であるからには留学に行かなければならないのでしょうか？あまり留学したいと思わないのですが。

A. 留学するかどうかは個人の判断にお任せしています。留学にはお金もかかりますし、場合によっては卒業が伸びることもあります。本学でもさまざまなことを学べます。留学に行く動機は人それぞれで、留学に行かないという理由も人それぞれです。大事なことは、将来後悔しないように、自分が納得いくまで考えて結論を出すことではないかと思います。

[先頭に戻る](#)